

ディスコグラフィー収載

ディスコグラフィー 【2014No.6】 (HP 収載)

分類：CD

作曲家： G.フレスコヴァリディ／ヨハン・セバスチャン・バッハ

曲名：100 のパルティータ・A.ヴィヴァルディの協奏曲に基づくチェンバロ独奏協奏曲
他

演奏：中田聖子

発売：KLAVI CD

No. : KLA:006



概要：

「チェンバロで辿るバロック音楽」と言う題がついた、手作り感あふれるマイナーな個人レーベルの CD で、宝塚ヴェガホールの演奏会で求めてきました。解説も演奏者自身が書かれています。一般市販はないようで問い合わせ先は下記になっています。

Info@klavi.com

録音はごく最近でライブ録音のため雑音が入っているという断り書きがあります。これを取り上げた理由は、生演奏との比較もありますが、楽器と調律のことが記載されているからです。音律は Valotti で、ピッチは 415Hz のバロックピッチと書かれています。Valotti 律という音律の知識がなかったもので調べて見ますと、「三種類のチェンバロでバロックから初期古典派の小曲を聴く」によれば、「17 世紀の曲は中全音律、17 世紀の前半の曲になると主に 1/5 コンマ中全音律、それに曲によって、改良中全音律、ヴェルクマイスター第 III、キルンベルガー第 III、Barnes/Bach、Valotti などの音律、そして古典派のハイドンやモーツァルトの曲は Young の音律が用いられている。」とのことで、その一つである Valotti 律ということになります。

http://blog.goo.ne.jp/ogawa_j/e/6e80a0442d47b30a2eebd4bfe1c5d8b0

さらに詳しい説明では、Valotti 律は「西洋音楽の音律についての簡単な説明」に記載されており、イタリア、パドゥアの教会音楽家フランチェスコ・アントーニオ・ヴァロッティ (Francesco Antonio Vallotti, 1697 - 1780) が提唱した、 $1/6$ ピュタゴラス・コンマを 6 箇所完全五度で狭くする音律ということのようです。

http://blog.goo.ne.jp/ogawa_j/e/1550a879dfe4ec0fb1722b81bac27210

宝塚ヴェガホールの演奏会ではイギリスの科学者トーマス・ヤングが提唱したヤング律で演奏されていたことは、3月4日の研究室日誌で述べました。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=1962>

絶対音感がないものですから実際に聴いてみても、何がどうちがうのか、さっぱり分かりませんが、こういうことを研究されている演奏家が居て演奏会や CD で触れられるのはありがたいことです。コンサート情報は演奏家のホームページに出ています。

<http://www.klavi.com/>

手作り CD とはいえ、音は悪くはないですし、むしろライブ感が好ましく、先の宝塚ヴェガホールの演奏会を思い出させるものでした。